

2023 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
麻生建築&デザイン専門学校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生建築&デザイン専門学校の2023年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2024年 1月 31日

校 長 竹口 伸一郎

自己点検・評価責任者

校長代行 今泉 清太

### 目 次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 7 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 9 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 9 -
基準 2 学校運営.....	- 10 -
基準 3 教育活動.....	- 15 -
基準 4 学修成果.....	- 20 -
基準 5 学生支援.....	- 22 -
基準 6 教育環境.....	- 24 -
基準 7 学生募集.....	- 26 -
基準 8 財務.....	- 27 -
基準 9 法令遵守.....	- 28 -
基準10 内部質保証.....	- 29 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 30 -
基準12 国際交流.....	- 31 -

### 評価結果

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

# I 教育理念・教育目標(育成人材像)

## 【本校の教育理念】

「知性を兼ね備え、責任あるものづくりを通して、業界の第一線で社会に貢献し、感動を与えられるプロフェッショナルを育成する」

急速に変わり続ける社会の変化に柔軟に対応でき、良識と高い専門技術・知識を備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職を育成し、即戦力として社会へ送り出すことで社会に貢献することを目指す。

## 【教育目標（育成人材像）】

### (建築工学科)

幅広い建築知識を修得し、住宅や都市環境の創造と保全を通して、社会・産業・地域に貢献できる人材を育成する。卒業後、建築士・施工管理技士を目指し、リーダーとして活躍できる人材を育成する。

また、大学を併修（任意）することで研究部門への道が開け、最先端技術への挑戦など、技術の発展や効率化に貢献できる人材を育成する。

### (建築学科（昼）)

社会的要求の多様化を踏まえた住宅事情などに対応できる建築技術者を育成する。建築の専門知識を提供し、同時に専門性を活かしながら人との繋がりを大切にできる人材を育成する。卒業後は、建築士、施工管理技士を目指し現場でのリーダーとなる人材を育成する。

### (建築 CAD 科)

最先端の CAD 技術と建築に対する創造性を持った技術者を育成する。CAD オペレーションだけでなく、BIM (Building Information Modeling) のワークフローに特化した設計手法や、意匠・構造・設備等の 3 次元 CAD データを作成できる知識・能力を養成する。将来、建築全般を把握し現場を動かす BIM マネージャーとなり、大型プロジェクトの核となる人材を育成する。

### (インテリアデザイン科)

インテリア空間のコーディネートやカラーマネージメント、ショップや商業施設の設計、目的に応じた空間を演出するためのデザインについて学び、インテリアデザイナー・インテリアコーディネーターなど室内演出のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する。インテリアデザインの知識を活かし適切な接客対応力を発揮できる力を養成する。

### (建築学科（夜）)

社会人としての経験を活かし、実用的な建築の創造ができる力を養う。卒業後は建築士受験や業界への転職等、キャリアアップすることで建築業界へのキャリアパスを広げ、さらなる社会貢献ができる人材を育成する。

### (建築士専攻科)

建築士指定科目を履修した者に対し、建築士試験を受験し合格を目指す。

大きな目標に全員で取り組むことで協調性を養い、目標を達する大きな達成感を得てやりがいをもって活躍できる建築士を育成する。また、大学併修を選択した者には建築学習の集大成として、卒業研究に取り組み、建築学を深く追究することができる人材を育成する。

### クリエイティブデザイン学科 (プロダクトデザイン専攻)

ものづくりに求められる、様々な技術を学び、業界先端技術を持って企画・設計をこなせる人材を育成する。設計に関しては、3次元CAD「CATIA」の技術を習得し、幅広い工業製品の設計が可能な技術獲得を目指す。

また、プロダクトデザインに関する広い知識を養い、社会的・商業的に価値のある企画力の養成を目標としている。

### クリエイティブデザイン学科 (ビジュアルデザイン専攻)

視覚情報によるコミュニケーションを主体とした、商業的価値のある各種メディアのデザイン及びオペレーションが可能な人材を育成する。

ここに含む商業的価値のある各種メディアとは、主に紙・WEBによる商業広告や、それに関するマーケティング施策を指す。具体的には、業界標準のツールを活用した媒体制作力と、目的に応じた問題提起と解決提案力の養成を目標としている。また、様々な文化・趣向に対して広い視野を持ち、変化するニーズへの対応能力を養い、社会で活躍出来る人材を目指す。

## 【3つのポリシー】

### (1) 入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

設立以来、麻生塾の教育方針には「専門性を高め、かつ人間性・人格の成長を図ります」と掲げ、常に企業ニーズにこたえられる人材育成に努めている。これを達成できる、次のような人を広く受け入れる。

1. 感謝と思いやりの心を持ち、何事に対しても熱意と情熱を持って取り組むことができる方
2. 社会の一員として、職業を通じて世の中の発展に役立ちたいと考える方
3. 相手の立場や考え方の違いを理解し、その差異を肯定的に受け止められる方
4. 世界や未来に向けて関心があり、それに向けて努力を惜しまない方
5. 常に新しい技術や技能に対して関心を持ち、それに挑戦し、打ち勝とうと思う方
6. 将来のビジョンに向けて突き進むことができる方

### (2) カリキュラム・ポリシー

#### 【建築系学科】

建築工学科・建築学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(夜間)・建築士専攻科

建築系学科では、共通する教育目標により、学生が体系的かつ主体的に学習ができるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施する。

1. 建築士受験科目を共通とし、建築士に関心を持たせる教育

2. クラスの枠組みを超えたゼミへの参加を可能とし、多様な価値観を共有・尊重した教育
3. ICT 機器を活用した教育を推進し、建築に携わる CAD 教育や社会の変化に適応できる教育
4. 学科の特性に応じた産学連携等を推進し、業界や企業への関わりを持ち、職業に関心をもたせる教育

(建築工学科)

卒業後、建築士・建築施工管理技士を目指すことを踏まえた建築の知識を修得し、建築業界の多様なキャリアパスを描くための体験や学びを設けた教育。また、希望者には大学を併修する（任意）コースを設け、学位の取得を可能にする教育

(建築学科（昼）)

卒業後、建築士・建築施工管理技士を目指すことを踏まえた建築の知識を修得し、社会の進歩や変革追求ができる教育。建築関係職での即戦力としていち早く業界の一員となりえる人材を意識した教育

(建築 CAD 科)

建築士となる共通の学習に加え、デザイン表現としての CAD・CG 技術習得、自分の考えを伝える能力、資格取得を目指す知識と実践の教育

(インテリアデザイン科)

室内空間デザインについて学び、室内環境が使う人にとっての影響を理解させ、時代のニーズに対応し、自分の考えを伝え表現できる能力、ならびに資格取得のための教育

(建築学科（夜）)

社会人としての経験をふまえ、今後のキャリアパスを意識し、自主性・協調性・価値観の共有を実感させる教育

(建築士専攻科)

高資格の受験合格を目指すことで、持続力・忍耐力・集中力を養い、達成感・困難に打ち勝つ力を養う教育

【 デザイン系学科 】

クリエイティブデザイン学科

デザイン系学科では、共通する教育目標により、学生が体系的かつ主体的に学習ができるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実施する。

1. 個人の価値観にとらわれず、デザインによる問題解決に探究心を持たせる教育
2. 教育目標にある知識や技能を身に付け、就業後の業界変化に適応できる教育
3. 企業と連携した実習・演習を通して、社会のニーズに応えられる実践力を高める教育
4. 学科の特性に応じた産学連携を推進し、実務的な提案力を養成する教育

クリエイティブデザイン学科（プロダクトデザイン専攻）

各種プロダクトデザインに関して、造形・図学・色彩と、幅広い知識を身に付ける教育

3次元 CAD は、CATIA 認定技術資格を目標とし、自宅と学校での円滑な演習を実施し、スムーズな資格取得を目指す。

クリエイティブデザイン学科（ビジュアルデザイン専攻）

演習科目は、教育目標にあるメディアに対するビジュアルデザインの制作からプレゼンテーションまでを想定し、実務を想起させる内容を取り込んだ教育

また、学習習慣の定着のため、自宅学習を視野に入れた継続的な専門技術の浸透を目指す。

(3) 課程修了の方針（ディプロマ・ポリシー）

本校では、教育目標（育成人材像）を踏まえ、以下のような知識・態度・能力を備えた学生に対し、卒業を認定する。

1. 専門技術を習得することで、それらの知識をより広く、深く、探究し適切に活用できる能力を身につけていること。
2. 社会人としての基本的教養と道徳的態度、職業倫理を持ち、主体的に問題に取り組むことができること。
3. 相手を理解・尊重しつつ、チームの成果に貢献することができること。

## Ⅱ 重点項目

### 1. 重点項目

#### ① 建築士の資格合格率の向上

建築士受験資格者が在籍する建築士専攻科の2級建築士の合格率、工業高校にて2級建築士の受験資格をもつ在校生への2級建築士合格を支援する教材および学習支援体制を確立する。

また建築士専攻科では、1級建築士の合格者を輩出するための学習教材・支援体制の整備を進める。

#### ② 建築設計競技（コンペティション）での入選を目指した学生の技術力向上

建築設計競技に参加し、教員の指導力、学生の技術力の向上を図っていく。設計競技では、結果（入賞）を出すことにより、学校の実績の積み上げ、教員・学生の自信へとつなげ、今後のさらなる成果を目指す。

### 2. 取組み状況

#### ① 建築士の資格合格率の向上

- ・建築士専攻科の授業スケジュール・担当者・時間割・授業テキストなどの見直しを行った。
- ・建築士法の改正により在学時に2級建築士の受験が可能になった工業高校（建築士指定校）を卒業した学生の2級建築士受験の学習支援体制（担当教員・補講授業）を確立した。
- ・建築士法の改正により受験可能になった建築士専攻科の学生の1級建築士合格のための学習支援体制（担当教員・補講授業）の準備を行った。

#### ② 建築設計競技（コンペティション）での入選を見据えた学生の技術力向上

- ・建築設計競技に挑戦する学生向けにゼミを開講し、担当教員による制作の指導を行い高いレベルの作品作りを目指した。
- ・麻生建築&デザイン専門学校の強みであるBIM技術を使用し完成度の高い作品づくりをおこなう。またBIMを使用した設計競技に参加した。

※BIM：Building Information Modeling（ビルディング インフォメーション モデリング）の略称。建築業界では当たり前になってきている。

- ・例年行っている卒業設計競技会を麻生デザイン競技会と称し、在校生も対象とした形式に変更した。

### 3. 総括(成果と課題)

#### ① 建築士の資格合格率の向上

- ・R4年度の建築士専攻科の二級建築士 学科試験合格者 52名 設計製図試験合格者 40名
- ・在校生の二級建築士合格 2名（建築工学科3年生（1名）・建築工学科2年生（1名））
- ・R5年度の建築士専攻科の学生4名が一級建築士と二級建築士のダブル受験予定  
次年度の学習フォロー体制を構築していく。

② 建築設計競技（コンペティション）での入選を見据えた学生の技術力向上

- ・一般社団法人福岡県建築士事務所協会主催設計競技において、団体賞 6 連覇、県知事賞などを受賞
- ・マロニエ BIM コンペ OSAKA2023 において、最優秀賞（国土交通大臣賞）などを受賞
- ・麻生デザイン競技会 2023 を開催した。学年・学科を超えた競争機会を作ることができ、学生のモチベーションを高めることができた。また在校生の作品も多くの教員に講評される機会が創出されたので、学生の今後の成長を期待することができる。提出作品はすべて 7 号館の階段の壁面に掲載しており、常に建築作品を目に留めることができるようにしている。また WEB 上にも公開している。

## Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

=====

### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

=====

#### 中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

#### 【取り組み状況】

学校の教育理念・各学科の教育目標（育成人材像）は定めている。ともに「学生便覧（学生のための学校ガイドブック）」に掲載し、麻生建築&デザイン専門学校のキックオフ会議、非常勤講師会にて周知を図っている。学生へは、新入生オリエンテーション、進級時の就職実務にて周知している。また学校のホームページにて公開している。

#### 【課題及びその改善方策】

課題は特にない。引き続き、学期の始まりや進級時の就職実務等で学生や保護者等への周知を図るとともに非常勤講師に対しても講師会で再確認していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

=====  
基準 2 学校運営  
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念に基づいて運営方針を策定している。

運営方針は年度初めの麻生建築&デザイン専門学校のキックオフ会議にて教職員・非常勤講師に共有を図っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を作成しており、年度初めの麻生建築&デザイン専門学校のキックオフ会議にて教職員に共有を図っている。また教務会議や学科会議により状況確認を行っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も各会議において事業計画の再確認をしつつ、業務に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別で必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

学内においても、組織運営、意思決定機関は、適切に機能している。責任者会議と教務会議を週1回、学科会議を月1回実施し、意思決定・情報共有を状況に合わせた会議運営にて行っている。本校の事務職員の資質・能力向上についても、面談等により目標を設定し研修への参加などの方策を講じている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

なお、2024年度の人事制度改正に向け新制度設計の整備が完了し、学校法人麻生塾人事グループが新制度内容の変更点周知に併せ既存制度の再理解を図るよう活動をすすめている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

学生の情報管理、学生管理の処理は塾内のシステムである麻生塾システムで一元管理され運用している。  
また、Microsoft teams で教員と学生間で情報共有を行い、クラスや授業の形態にあわせて適宜、情報システムの手法・構成を工夫し、業務の効率化を図っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。今後も状況に合わせた業務効率化を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

=====  
基準 3 教育活動  
=====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育理念、教育目標（育成人材像）に沿って、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定している。学生便覧等に明示し、教職員に周知するとともに、学生には入学時のオリエンテーションにて学生便覧を使用し、説明している。また学校ホームページに明示し、保護者等や関連業界等をはじめ広く社会に公表している。

また、教育課程編成委員会を開催し、各ポリシーの検証をおこなっている。教育課程編成委員会でいただいた意見は、カリキュラム会議を経てカリキュラムに反映している。カリキュラムの実施状況や改善の有無について意見交換の場を、各学科のミーティングで設けている。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。業界の変化に素早く対応できる体制を構築しておく。引き続き、学校ホームページを活用し公表していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。

職業実践専門課程の認定要件として開催している教育課程編成委員会にて業界ニーズ・社会ニーズを把握し、企業や業界ニーズを踏まえた教育課程を編成している。

各科目とも学習目標を達成するためのシラバス、コマシラバスを策定している。授業の実施方法も対面授業・オンライン授業の良いところを活かした形式にし、効果的な教育を行っている。また、授業の実施状況を記録として残し、シラバスに基づいて授業を実施しているかどうか検証できるようにしている。加えて、今年度はカリキュラムマップを作成し学科会議で各科目の実施内容や課題提出にかかる情報共有を図ったことにより、学生の自己学習時間の確保に配慮した。

キャリア教育として、就職実務やGCB教育（グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム）などの授業を実施し、学生の社会的・職業的自立に向け必要な能力や態度を育成している。また、就職年次を対象とした就職キックオフや学内合同企業説明会なども実施している。

さらに「Teachare」（ティーチャー、麻生塾独自のラーニングマネジメントシステムで学習教材の配信や成績などを統合し管理するシステムのこと。「Teachare」は教える（Teach）と共有する（Share）を組み合わせた造語）による就職指導を開始し、早期化した就職活動に対応中である。

【課題及びその改善方策】

特に課題はない。引き続きカリキュラムマップによる科目の情報共有を図っていく。また、これまで通りにシラバス、コマシラバスを作成し、それに基づいて授業を実施すべく周知・運営していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S

3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

### 中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

#### 【取り組み状況】

授業アンケート・ホームルームクラスアンケートを定期的を実施し、授業評価やミニ授業アンケート、授業の理解度確認テストを実施することにより学生の授業取り組み状況や授業理解度を把握し、各担当職員の授業改善を図っている。また、他の教職員複数名（基本的に2名）による授業見学とフィードバックを複数回繰り返す、改善すべき点をアドバイスシートに記録していくなど、授業改善について組織的に取り組んでいる。また授業見学は授業内容を録画し、担当教員が客観的に授業の振り返りをできるようにしている。

#### 【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も継続して授業の満足度や学習理解度の把握し、多角的な授業改善に組織的に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価、単位認定、進級・卒業の判定についての基準は明確に設定されている。学則・学生便覧(学生のための学校ガイドブック)にて認定方針・要項を明確かつ簡潔に学生に示している。

成績評価、単位認定、進級・卒業に関する規程に基づき、成績評価教科担当と担任間チェック、成績登録システムへの入力確認、管理職による確認などを行い、適切に成績を評価し、単位を認定している。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。今後も継続して組織的（成績評価教科担当と担任間チェック、成績登録システムへの入力確認、管理職による確認）にミスの防止を図り、適切に成績を評価し、単位を認定する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

専修学校設置基準等の法令に則り、教員要件、定員などの要件を満たしかつ学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を配置している。

責任および業務担当を明確化するため校務分掌を定めており、定期的に確認し責任者を中心に協力して業務を進めている。

専門性を備えた教員を備え、学生数増加にも適切に対応できている。新任教員には独自の研修計画をたてて、指導力の向上や業務理解を深める研修を実施している。また、指導役教員をチューターとして配置し、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練）を行っている。

非常勤講師会・教務会議・コミュニケーション（責任者）会議で意見交換、情報共有を行い、教員間で連携・協力する体制を整備している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。入職後のキャリアプランを立てられるようにすることが望ましい。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

=====  
基準 4 学修成果  
=====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

二級建築士学科試験合格 54 名、宅地建物取引士 6 名合格、インテリアコーディネーター（一次試験）合格 10 名などの資格取得、一般社団法人福岡県建築士事務所協会知事賞（他、多数入選）やマロニエ BIM コンペ OSAKA2023 においても優秀賞入賞などに加え、最優秀賞と特別賞（審査員長賞）の二冠を達成しコンペティションでも前年度以上に成果を出すことができた。

就職指導においてもオンライン型の説明会・インターンシップが浸透し、採用試験傾向の分析や、就職支援の改善指導も充実させることができた。

また、各クラスの運営状況については、毎月クラス運営報告書において把握し、責任者が中心となって休学・退学防止のガイダンスを細かく実施した。それでも休学や退学が発生している。

【課題及びその改善方策】

さらなる休学・退学防止のための対策を検討し実施する必要がある。

コロナ禍では実施できなかった、授業内でのクラス内コミュニケーションや学校行事・クラス行事など、学修環境の基盤となる学生間の人間関係の構築、社会性の育成に重点を置き、包括的な支援をに重点を置き休学・退学の低減を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	A

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

卒業年度ごとに卒業後一定期間後の勤務先等就業状況を調査・集計し卒業後の状況把握に努めている。卒業生や就職先等関係者からの意見聴取結果は週1回の就職部会にて、就職担当職員と教職員間で相互に情報共有され、教育活動の改善に活用されている。また、卒業後の卒業生の活動実績についても学内イベントで在校生、保護者等、企業に対して周知するなど、卒業生の活動実績を踏まえ、組織的かつ積極的に教育活動の改善に取り組んでいる。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。今後も学校法人麻生塾就職グループ（以下、「就職グループ」という。）と連携をとり、企業・卒業生の活動実績、動向等の情報把握に努め、継続して教育活動の改善を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S

=====  
基準 5 学生支援  
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾学生支援グループ（以下、「学生支援グループ」という。）や就職グループと連携をとりながら入学前から卒業後まで、様々な学生の修学支援・進路支援を行っている。具体的には以下のとおりに支援を実施している。

<経済支援> 特待生制度、進級支援制度、学費分割納入制度、高等教育無償化支援制度の認定など。

<健康管理支援> 健康診断の実施、ホームルームにての健康確認、保健室設置など

<就職支援> 就職専門職員による就職指導、担任による職種理解支援、履歴書作成指導や求人票・企業情報の提供・就職活動支援のための新システムの導入や、保護者等も含めた就職説明会、卒業後の再幹旋や就職相談などのキャリア支援。

<生活支援> 直営寮・提携寮の完備、寮監の配置。保護者等も含めた三者面談など。

<修学支援> ガイダンス記録による留年者および休・退学者の状況把握、障がい（身体・精神・発達障害等）等支援が必要な学生への修学支援の取り組み、入学前教育や学力不足を補う補習教育など。

<社会人学生への支援> 夜間学科にて学習、就職そのほかの支援を担当教員を配置し支援を行っている

<課外活動> 学内の建築サークルを主軸とした自治体イベント・各種コンペティションへの参加や、担当教員による学内外への活動実績の共有と情報提供など。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。今後も適切に修学支援、生活支援、進路支援の取り組みを継続していく。特に障がい（身体・精神・発達障害等）等で支援が必要な学生への支援体制づくりや、学生の多様性への適応など、引き続き検証を重ね、より一層改善を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S

5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S
5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

=====  
基準 6 教育環境  
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

今年度も学生数に応じて教室計画を見直し、学習環境の維持向上に努めている。また、設置基準を遵守し、施設・設備の管理責任者を定め、点検、補修・修繕を定期的に行っている。特に昨年度からネットワーク設備の整備に重点を置き、計画的かつ適切に設備の充実を図っている。教育上必要な機材・備品についても定期的に棚卸を実施し、使用状況の把握や点検、除却処分に加え、教育上必要な新設備の導入を進めている。

図書室に定期的に建築専門図書を蔵書し、学生の利用を促進している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、引き続き、学校法人麻生塾業務推進グループと連携し、経年劣化に伴う施設・設備の整備を進めていく。また、適切な施設管理・整備と並行し、人材育成に必要な新設備の導入を計画的に進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

実習前研修、インターンシップ保険加入証明書の発行等、事前に安全管理指導や書類準備を整えたうえで昨年度より大幅な回数の増加と規模の大きい学外研修、現場見学・現場体験やインターンシップなど企業と連携し実施することができた。学生数の増加を考慮し、安全管理のマニュアルに沿って学科単位で避難経路・避難場所の確認を行った。

【課題及びその改善方策】

今後も学内外の実習等の教育効果について検証と教育体制の改善を進め、職業教育の充実を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	A

=====  
基準 7 学生募集  
=====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を募集要項、学校公式ホームページで公表しており、明確な選抜基準を定め適切に実施している。また、感染症拡大の懸念から、オンラインと来校による実施体制を整えており、運用に関するノウハウを Microsoft Team で共有することで、公正かつ適切に入学試験を実施できている。選抜方法は募集要項に明記され、オープンキャンパス等の学校説明会においても資格取得状況、就職状況等の教育成果や校納金等、志願者が必要とする最新の学校情報を正確かつ適切に情報提供している。近年の物価高騰による校納金等の増額に対しては再確認のうえ、健全な金額設定がなされている。さらに変更の決定事項は議事録に記載し、募集要項等へ正確に反映させるとともに関係部署と密に連携、情報共有を行っている。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。18歳以下人口の減少にともない、今後ますます募集活動の難航が予想される。アドミッション・ポリシーに準ずる人材を募集するための定員・選抜基準などの再確認・再検討を進めていく。引き続き適正適切な募集設定と募集活動に組織的かつ計画的に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

=====  
基準 8 財務  
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

学校の財務面の管理運営については、予算計画の策定、月次における予実管理および昨年度対比による分析を実施し、その中で重要な差異が生じた場合には原因の特定や問題点の把握等を行い、適切に対応している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はない。今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

=====  
基準 9 法令遵守  
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

学校運営に係る各法令等について、学校法人麻生塾人事グループ（法務担当）（以下、「人事グループ」という。）・同教育推進グループ（以下「教育推進グループ」という。）等、関係部署と密に連携し、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。また、法令等に沿って学内規定が定められており、学生便覧に記載することで、学生への周知徹底と法令違反の抑止に努めている。一方、教職員に対してはグループ校と統合的に機能している人事グループと密に連携を取り、法令遵守（個人情報保護・ハラスメント防止啓発）、危機管理に関する研修実施に加え、ヒヤリハット、事故報告等により調査・報告及び再発防止策等、リスク管理（リスクマネジメント）に注力している。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。グループ校を統括している本部組織部門（人事グループ、教育推進グループ等）と密に連携を取り、適正な学校運営に継続して取り組む。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S

=====  
基準10 内部質保証  
=====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教育内容・学校運営について、自己点検・評価を通して引き続き課題解決に取り組んでいる。また、職業実践専門課程の基準に基づき、年1回の学校関係者評価委員会、年2回の教育課程編成委員会において、外部の第三者（有識者・関連企業関係者等）から教育活動及び学校運営に対する意見収集と検証を行い、昨年度の改善指摘事項についても改善状況の報告を行っている。学校関係者評価報告書、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の議事録等の資料を Microsoft Teams で共有、保管し、教職員が確認できるよう周知徹底に努めている。さらに、今年度は教務会議に加え各学科会議においても自己点検・評価結果を開示することにより遅滞なく教職員全員に共有し、組織的な改善活動に取り組んでおり、外部に対しても学校ホームページで公表している。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。今後も委員以外の教職員に対して自己点検・評価内容の共通理解を深める機会を積極的に設けるとともに、効果的な発信を行うことによって、認識の乖離を最小限に止め、組織的かつ積極的に意識の均一化を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

=====  
基準11 社会貢献・地域貢献  
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

今年度は新型コロナウイルスの感染防止のための規制も大幅に緩和され、ほぼ従来通りの活動が可能となった。地域の「まちづくり推進協議会」と連携した講座実施は例年通り実施され、実質的な地域貢献活動の意識付けを図るとともに、推進委員会が中心となり、複数のボランティア活動に意欲的に参加した。今特に学内の建築サークル（GROWTH）が主軸となって学校周辺の清掃活動、「ラブアース・クリーンアップ 2023（福岡市）」に取組み、学校近隣の美野島商店街（福岡市博多区）でのお祭りボランティア、JR 古賀駅前のイルミネーション設置活動等、地域の活動・イベントに意欲的かつ積極的に参加した。

【課題及びその改善方策】

特に課題はない。学生の安全管理に配慮しつつ、引き続き学校特性や学習の専門性を活かした地域貢献活動の推進と拡充を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S

=====  
基準12 国際交流  
=====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

学生便覧に外国人学生規程を明記することにより学生への周知と理解を促している。留学生の在籍管理やビザ更新に関しては、国際交流センター、学生支援グループなど留学生担当部門と連携し法令遵守につとめており、留学生の就職支援においても就職グループと担任間で連携をとり包括的な支援を行っている。今年度は防災訓練を再開し、防災意識の向上も図っている。また、学習意欲のある留学生に対して、成績・出席率等により学内選考したうえで奨学金を支給している。さらに、留学生専用寮を設置、整備しており生活・衛生指導なども綿密に実施した。

コロナ禍での中断を経て、渡航留学プログラムは完全に再開している。ただし、渡航に不安のある学生向けにオンライン留学という選択肢は残している。麻生専門学校グループ内の留学担当部門が留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、また学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特に問題はない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	S
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S